

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590400263		
法人名	社会福祉法人ほのぼの会		
事業所名	グループホームしのだ		
所在地	近江八幡市上田町540-1		
自己評価作成日	平成23年5月13日	評価結果市町村受理日	平成23年6月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-shiga.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2590400053&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432 平和堂2階		
訪問調査日	平成23年5月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では、毎月課内会議にてご利用者様のケアについて話し合い、共有を図っております。特に、個別ケアについてはその方の出来ること出来ないことを見極め日常の生活中での関わりを、自然な形で行っていただけるように努めております。地域との関わりについては、近所の住職様が月に一度施設へお経と法話に来所して下さいます。また地域の方々に野菜や花などをいただき多方面からのご支援により私たちは住まわせていただいていると感謝の気持ちで一杯です。家族会も発足以来3年目を迎えてご家族様のご協力をいただきながら行事も進めさせていただいています。安全面では、夜間警備会社により巡回をしていただいています。また、防火設備では、スプリンクラー・自動火災報知設備・火災通報装置・消火器の設置と完了しています。火災通報装置につきましては、消防署への通報のみならず、警備会社へも連絡がいくようになっております。避難訓練につきましては昨年度は、近隣の方々のご協力により2回/年実施致しました。今後も引き続きご支援・ご協力をいただきながらより良い施設作りに取り組んで参りたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は社会福祉法人が近江八幡市で展開する事業所の1つで「地域と共にその人らしく暮らすこと」を理念としている。全職員は利用者へ寄り添い信頼関係を高めて「思いや意向」を汲み取った上で、人格を尊重した木目細かな個別ケアに取り組んでいる。地域との関係も良好で、運営推進会議には地域から8名が参加して意見や提言を行い、近隣住職も毎月法話に訪れてもらっている。また家族会活動も積極的に行われている。利用者が昼食後から3時過ぎまで全員が元気に明るく歌を練習したり話し合ったりしている状況を見ていると、良いサービスを地域や家族と一体になって提供していることが窺える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内(リビング)に理念を掲げ常に職員全員が意識出来るようにしています。課内会議等で実践につなげられるように取り組んでいます。	「..最後までその人らしい..」「..地域と共にある..」と謳いリビングに掲示している。管理者と職員は課内会議で機会あるごとに「地域のお世話になっている事、事業所として地域に出来ること」等を話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑で採れたお野菜をいただいたり、散歩時の挨拶など、また地域の掃除へ出かけたりと少しでも交流が図れるように取り組んでいます。	4月の観桜会、10月のコスモス観賞会には家族会を交えて地域住民と交流している。日常的に散歩時には挨拶を交わし、季節の野菜や花を頂いている。自治会の草刈りにも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	何かお役に立てないかと模索中です。先日、子ども会の役員さんへ一度交流を持たせていただきたいと打診をさせていただきました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話の中で、地域との関わりの拡大を図るため、どのように働き掛けていけばよいかなどをアドバイスいただきました。	自治会、老人会、福祉協力委員、民生児童委員、地域住民、家族会の各代表、行政職員、法人内事業所管理者、管理者が出席し年3回開催している。会議では地域との連携関係の拡大、外部評価等を話し合っている。	省令に基づき運営推進会議は、メンバー数を絞って年6回開催を実現して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当施設のお便りは毎月市へお渡しし、実情をお伝えしています。また、ケアサービスの取り組みについては運営推進会議の時に報告し助言や指示等をいただいています。	介護福祉課にはベッドの搬入や介護保険の申請等、運営について忌憚ない相談をしている。ダンベル体操を事業所で開催することについても相談した。月刊の「しのだ便り」も届けて現況の報告をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての話は課内会議時にさせていただくことがあります。玄関の施錠については、道の交通量も多く常に解錠できる状況までには至っておりません。「外へ出られたい方は職員へ声をかけて下さい」と張り紙をさせていただいています。	運営法人で、毎年職員全員が研修を受け、課内会議や日常の現場で話し合っ実践に努めている。玄関は道路の交通量が多いことから、安全上施錠している。利用者が外出する際は声掛けしてもらい解錠して職員が同行している。	玄関の解錠に向けて、事業所内での検討を開始して欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を引き起こさないために、日頃の職員のケア(ストレスがたまらいような状況)に努めています。また、今後高齢者虐待防止関連法の勉強会を開催します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者はなく、今後学びの場を持ちたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、慎重に進めさせていただいています。日頃からご家族様とは話しやすい環境を心がけご理解いただけるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を立ち上げ、ご意見をいただける場を設け運営にも反映させていただいています。またご利用者様については、介護相談員さんの受け入れにより外部との接点を持っています。	年3回の家族会や家族が来所した時に、家族を交えた地域との交流の拡大等様々な意見を聴取している。苦情相談窓口は重要事項説明書に事業所、公的機関2箇所を明記し説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回／週の役職会議や、1回／月の課内会議により職員の提案や意見をいただき反映させていただいています。	課内会議で得られた意見や提案は、翌月の会議の冒頭で必ずフォローしており、事業所内の危険個所について検討などを行なっている。運営法人は職員のケアも重視しており、センター長は日常的に職員と話し合うよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回程度、昇給や感謝料を頂く際、職員の評価を行い給与等の見直しがされています。また、会議の時間帯など職員と話し合い開催時間を何時にするかなど意見を反映させていただいています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修につきましては、勤務を調整し全職員が受講していただけるように配慮しています。また、スキルアップのために資格取得等を勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の方が当施設へ訪問され、交流を持たせていただきました。今後は他の事業所へ訪問させていただく予定をしています。また、他の施設での交流は必要と考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に入所時は職員からの働きかけが大切であると思っています。職員間でも十分話し合い、ご利用者様のお気持ちに寄り添い、不安が軽減できるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に築く家族様との信頼関係については、ご利用者様の小さな動きでも気づいたことは報告・連絡を心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画を作成させていただき段階で、ご家族様やご利用者様の意見を十分お伺いしサービスへとつなげさせていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様からの学びは大きいと思っています。できない部分をご利用者様間や職員との関わりによって支え合い共に生活を送らせて頂いていると思います。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様とご家族様との絆は大切と考えます。来所時にはゆっくりお話していただける環境作りや、ご利用者様の出来ることなどをお伝えさせていただくように心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望によってはお電話をおかけしたり、来所時にはゆっくりお話ができる環境を作らせていただいたりとお支援させていただいています。	馴染みの人が来所した時はゆっくり話せる環境を作り再来所し易い様お茶を出す等配慮している。利用者に頼まれ知人へ電話したり、グループの特養に入居している夫への面会を支援する等にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様お一人ずつの性格などを把握し、ご利用者同士の関わりへの援助をさせていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状として、そのようなケースはありませんが、必要によっては相談・支援を行います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で思いや意向などを伺うようにしています。困難な場合は、ご家族様の来所時伺うようにしています。	日常の関わり合いの中で把握に努めている。利用者の入浴時や就寝前に寄り添って思いを聞き取るよう努めている。聴取内容は申し送り事項に記載し職員間で共有している。家族の来所時も意向や希望を聴取している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴等確認させていただき、職員間でも周知するように努めています。また、昔の暮らしについても普段の会話の中で伺うようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同じ一日を過ごす中でも、個々の心身の状態は大切と考えます。当日の体調の変化に気をつけ、その方にあった過ごし方で過ごしていただくようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については課内会議時の職員の意見を踏まえ、本人やご家族様と話し合い作成しています。	本人、家族の意向に基づき課内会議で検討し、センター長が作成する。計画書の設定期間は6ヵ月で家族の承認と確認印を得ている。状態に変化が生じた場合は見直して確認印を得る。	介護計画書は3ヵ月毎に見直しを行い、家族の確認印を得ることを望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録については、主任以上が全文書について目を通しています。その中で問題とされる部分については確認し課内会議に話し合い場合によっては変更反映させていただきます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに応えることはなかなか難しいのですが、その方が何を必要とし求めているのかを考えその方に寄り添ったケアを心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の協働までは至っていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を大切に、基本的に入所前のかかりつけ医へ受診していただいています。場合によっては往診をお願いしています。	かかりつけ医の受診は事業所からの介護メモを携えて家族が同行し、結果は家族から口頭で報告を受けている。かかりつけ医によっては、依頼すれば往診可能な体制を採っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ふれあい看護師と常に連携をとり、相談や指示を仰いでおります。また当施設へ訪問していただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には訪問させていただき状況の把握に努めています。また、点滴等処置が難しい場合には早めに施設への受け入れを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を作成し事前にご家族様へ説明し同意をいただいています。また今後について意見や希望等もいただけるようにしています。	重度化対応指針を作成して本人、家族の合意を得て調印している。指針には看取り介護は実施しないこと、医療との連携、家族等の信頼・協力関係、職員の教育・研修等が明記されている他に利用者、家族の希望が記載出来る内容となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様個々の連絡先や主治医の一覧表、また医療連携体制マニュアルを常に目の届くところに設置し方が一に備えています。救命救急講習には全職員が実施済みです。AEDも施設内に設置し全職員使用できます		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年地域の方のご協力をいただき避難訓練を実施しています。今後、地震を想定した訓練を実施します。	マニュアルに基き、年間2回夜間想定 of 自主訓練と消防署指導下で近隣住民も参加しての総合訓練を実施している。通報システムは消防署と警備会社経由で近隣の2軒にも繋がっている。地域協力体制も確立している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳やプライバシーについては、課内会議時話あっています。一人ひとりの人格を大切に声かけには特に注意をしています。	課内会議で話し合い徹底に努めている。人格尊重の意識付けを常に図る目的で、職員が輪番でそれぞれの言葉で毎月作成した標語を脱衣所のホワイトボードに書き出している。個人ファイル類は施錠して保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わからない時や迷った時は本人に伺い自己決定ができるような支援をさせていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に希望を伺い実施するようにしています。現状としてはその日をどのように過ごしたいかまでは伺えていません。しかし、全体としてゆっくり、ゆったりと過ごしていただけるように取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれを楽しんでいただく一つとしてマニキュアと口紅の購入をしました。希望の方のみ使用していただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備のできる方が限られています。声かけし盛り付けなどお願いすることはありますが、レクリエーションを優先していただくこともあります。おやつなど購入する際は声かけし好みの物を伺い買ってきています。	利用者全員が職員と一緒に言葉を掛け合いながら楽しく摂っている。阿弥陀様へのお供えや盛り付けを手伝う利用者もいる。同じ法人内の特養や家族会での外食にも定期的に出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量については、記録しています。体調不良時には、その方にあった食事への変更も行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の口腔ケアの実施を行っています。義歯の不具合にはご家族様へ連絡し歯科受診へとつなげています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつを減らす取り組みの一つとして、ショーツへの変更を一部実施しました。また、排泄介助時には極力排泄が出来るようにゆとりのある介助を心がけております。	全職員は利用者の排泄パターン表に記録し、それを共有して言葉掛けを大切に余裕を持って誘導し自然排泄に努めている。トイレの回数を利用者に記録させて意識を高める等自立に向けた改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘への取り組みについては、第一に水分摂取量に注意をしています。また個々に応じ看護師と連携をとり排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日と順番については、個々に沿った支援ができていないのが現状です。	週3回(月、水、金)の午後に入浴することを基本としている。入浴時は職員と会話や歌を楽しみながら20～30分ゆっくりと入って貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後の休息や昼食後の休息は自由に行っていただいています。疲れておられる方など「起こさないで欲しい」と言われる方にはゆっくり休んでいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケースファイルを、いつでも閲覧できるようにしています。服薬変更時には全職員が周知出来るようにお知らせしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の出来る事を見極め、楽しみと生きがいをもてるように努めさせていただいています。嗜好品についても伺い購入支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物やご主人への面会など、その日の希望にはなかなか応じる事ができませんが、計画に基づき実施支援をしております。	週に2～3日は篠田神社周辺を散歩している。週に1回の買い物や同じ法人内の特養への訪問は計画に基づいて実施している。その他家族会での外出や地域のラジオ体操にも参加している。	様々な機会を捉えて、外出頻度を上げるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては紛失や、物盗られ妄想などがあるため所持していただいていません。買い物時には立替払いによって購入していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された時には、電話のとりつきや、はがきの支援などをさせていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では、ご利用者様が作成された作品などを飾りつけ落ちついた雰囲気の中にも季節感があるように工夫しています。また、玄関先やリビングには花を生けています。	リビングは吹き抜け構造で明るい。壁には利用者の作品を飾り和室には阿弥陀様が安置され広い窓からは和風庭園が望める。玄関には生け花や篠田の四季の写真が飾られて落ち着いた雰囲気となっている、廊下やトイレは広くて清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファに座っての団欒や、裏口のちょっとした腰掛けなど、所々での空間で井戸端会議が開催されています。また、陽あたりのよい場所を好まれる方には椅子を設置しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前使用されていた馴染みの家具や、昔のアルバム等を持参していただいています。	居室はゆったりと広く、全室フローリング敷きで清潔である。利用者は各々の馴染みや好みの家具、調度品を持ち込み本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。テレビを持ち込んでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設ないでは張り紙などの工夫を行い、出来るだけ自立した生活を行っていただけるように取り組んでおります。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	今まで特に変化がなければ「認定の有効期間満了まで自動的に更新して継続とさせていただきます。…」と計画書に文言を入れ同意をいただきました。	3か月に1度必ず計画書を作成し同意をいただきます。	現在作成している計画書を見直し、早急に家族の確認印をいただきたいと思います。	2ヶ月
2	10	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保職員全員常に言葉がけには注意をはらっていますが今以上に丁寧にしていきたいと思っています。	その方の立場や寄り添うケアを追求します。	課内会議を利用しプライバシーについて話し合い、実践していきます。	3ヶ月
3	18	散歩等のお声かけについても、年間を通じ、暑いや寒い、また眩しいから等と好まれない方が多い。	外出頻度を増やす。	気候の良い時にできるだけ外出頻度を増やしていきたいと思っています。また、車でも気軽に外出ができる体制をとっていきたいと思っています。	6ヶ月
4	3	運営推進会議で省令に定めた実施回数が出ていません。	一回でも多く運営推進会議を実施する。	初回到次回の会議日を決めさせていただくようにする。	12ヶ月
5	14	現在同業者との交流がほとんど出来ていません。同業者との交流は必要と考えます。	同業者との交流	同業者との交流会やネットワーク作り、勉強会を行いサービスの質の向上へとつなげたいと思います。	12ヶ月
6	5	表玄関や裏口玄関は施錠している状態です。現在、篠田では表の交通量が多く、スピードを出され通られることが問題となっています。	開錠に向け取り組む	開錠した時の危険性などを十分職員間や家族会にて話し合い慎重に進めていきたいと思っています。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。